

注:太字は定期接種(一定の年齢、月齢で原則としてすべての子どもに接種)、細字は一部の特定対象者に接種。

予防接種種類	出生時	1m	2m	3m	4m	5m	6m	8m	18m	24m	2y	3y	4y	6y	8y	成人
BCG <sup>*1</sup> TB(tuberculosis)	BCG①															
DPT(三種混合) <sup>*2</sup> Diphtheria,Pertussis,Tetanus				DTaP①	DTaP②	DTaP③			DTaP④					DT		
ポリオ <sup>*3</sup> Poliomyelitis			OPV①	OPV②	OPV③								OPV④			
B型肝炎 <sup>*4</sup> Hepatitis B	HepB①	HepB②					HepB③									
Hib <sup>*5</sup> Haemophilus influenzae type b																
肺炎球菌(小児用) <sup>*6</sup> Pneumococcus																
ロタウイルス <sup>*7</sup> Rotavirus																
MMR <sup>*8</sup> Measles,Mumps,Rubella									MMR							
麻疹 Measles								MR								
おたふくかぜ Mumps																
風疹 Rubella								MR								
水痘 Chickenpox (Varicella)																
インフルエンザ Influenza									インフルエンザ(6か月から8歳まで、2回/年)						≥60,ハイリスク	
A型肝炎 <sup>*9</sup> Hepatitis A									HepA①	(独自の生ワクチンです)						
髄膜炎菌 <sup>*10</sup> Meningococcus									MenA-PS ①、②			MenAC①		MenAC②		
日本脳炎 Japanese Encephalitis									日脳①		日脳②	(不活化ワクチンの場合には8m、+7d、2y、6y)				
パピローマウイルス <sup>*11</sup> Human papillomavirus																

《以下は一般の方にも理解していただくために本図作成者が加えた説明です》

- \*1 BCGは結核のリスクが低下した先進国で定期接種されていない国があります。一方、発展途上国の多くでは出生時(新生児期)に接種します。
- \*2 日本ではDPTですが一般には“DTP”と表現されます。先進国では精製百日咳ワクチンを含むDTaP(わが国もDTaP)が、発展途上国では百日咳菌体ワクチンを含むDTwPワクチンが主流です。
- \*3 ポリオワクチンには、経口生ワクチン(OPV)と、不活化ワクチン(IPV)とがあります。ほとんどの先進国ではIPVが主流になっています。わが国では2012年9月からIPVに切り替えられました。
- \*4 WHO(世界保健機関)はB型肝炎ワクチンをすべての子どもに接種するように勧告しており、現在では世界のほとんどの国で乳児期の定期接種に加えられています。
- \*5 Hib(Haemophilus influenzae type b:インフルエンザ菌b型)は乳幼児の細菌性髄膜炎の最も頻度の高い原因菌です。
- \*6 肺炎球菌は乳幼児の細菌性髄膜炎の主要原因菌であり、肺炎や中耳炎の原因ともなります。乳児期からの接種は結合型肺炎球菌ワクチン(Pneumo-conj=PCV)です。7価、10価、13価ワクチンがあります。
- \*7 ロタウイルスは乳幼児の感染性胃腸炎の主要な原因ウイルスです。ロタウイルスワクチンはいずれも経口生ワクチンで2種類(ロタリックスとロタテック)が市販されています。
- \*8 MMRワクチンは麻疹、おたふくかぜ、風疹の混合ワクチンです。世界中で広く使用されており、MRワクチン(麻疹+風疹)は少数派です。
- \*9 A型肝炎は生の食べ物や飲み物を通じて経口感染するウイルス性肝炎です。食品衛生環境の不良な地域ではリスクが高まります。
- \*10 髄膜炎菌はHibや肺炎球菌と異なり、年長児や成人でも髄膜炎の原因となります。わが国では4価髄膜炎菌ワクチンMenACWY(メナクトラ)が市販されています。
- \*11 HPV(ヒトパピローマウイルス)は子宮頸がんなどの原因となるウイルスです。サーバリックス(Cervarix:2価)とガーダシル(Gardasil:4価、9価)のワクチンがあり、同一種類で完了します。

《その他の主な使用可能ワクチン》: IPV

《2014年7月15日版からの主な記載変更事項》

- 1) DTaP④とMMRの年齢が”18か月”から”18~24か月”とされている。
- 2) インフルエンザワクチンが6か月から8歳まで、年2回の接種となった。